

## 暖地アスパラガスの収穫期の早進化について

## (第1報) 保温育苗による無仮植栽培の生育経過

後藤 道徳・江藤 博六

(宮崎県総合農試都城支場)

Goto, M. and Eto, H.

## Hastening the Harvest Time of Asparagus in Warmer Region of Japan (1).

## 緒 言

暖地のアスパラガスは、北海道や関西から栽培技術が導入され、栽培方式はこれらの地域とほぼ同様な方法がとられてきた。すなわち、初年目に播種～仮植、翌年の春に定植、3年目から収穫を開始してきたが、この方式では育苗期間および定植後に過繁茂状態となり収穫前に病害が多発して、栽培が安定しないばかりでなく、収穫までに2ヶ年の期間を要する。従って、これらの点を改善し暖地の気象条件に適合した栽培法を確立するため、従来よりも一ヶ月ほど播種期を早め、保温育苗し仮植育苗を省略して、初年目に定植し、2年目から収穫する栽培を試みたところ実用性の高いことが確認された。その生育経過について概要を報告する。

## 試験方法および材料

都城支場畑(火山灰)において、メリーワシントン500を用い、昭和42年2月15日、10cm×10cmに播種、播床は100cm幅の短冊型、120cm幅のビニールトンネルで4月25日まで被覆した。定植は同年7月6日、200cm×30cm、a当り165株を植付けた。

施肥量(kg<sub>a</sub>)は、基肥に堆肥400、苦土石灰30、N1.30、P2.24、K1.08(鶏ふん、硫加燐安1号、溶燐)、追肥にN2.38、P2.38、K2.38(塩加燐安1号)とした。

調査方法 調査は同一個体の追跡によるもの(追跡調査)と掘取調査の二通りとした。

## 試験結果および考察

発芽期は3月15日で、28日間の発芽日数となったが、これは露地育苗の場合、3月中、下旬の発芽日数に相当する。苗床における生育は第1表のとおりで、本方式の育苗では播床での生育が従来より30～40日促進されている。定植は莖葉を付けたまま行な

ったが、植えいたみは少なく、貯蔵根を10cmに切断して植付けた区でも生育の遅延はなかった。

植付後の生育は第2表に示すとおりである。地上部の生育は、8月下旬から9月上旬にかけて活発になり最盛期は10月中旬で、10月下旬から衰退が始まる。一方地下部の発達、8月下旬から根数の増加が目立ち下旬からは根重が急増してくる。そして地上部の最盛期以後もなお活動が盛んで12月に入るまで増加しており、地上部の生育よりやや遅れる傾向が見られる。以上の生育相は前年の調査結果でも同様であり、暖地では、12月中下旬までが生育の限界期と考えられる。

追跡調査による莖の発生と枯死の状況は、第1図に示すとおりである。すなわち、莖の増加は4月中～10月中旬までで、株当り総発生莖数は72本であった。莖の発生相についてみると、6月下旬から発生は急増するが7月に入ると低下している。これは植付けたことによって生育が一時停滞したためとみられ、その定植の影響は8月前半まで続いたものと推定される。莖の発生はさらに8月下旬から9月上旬にかけて最大の山があるが、この時期は病害虫による枯死莖(現状では褐斑病の完全防除は困難)と自然枯死莖が多く、地上部の生育で一つの転換期とみられ、栽培管理上重要な時期であろう。暖地では9月以後が生育適温期に当り、生育相からみた養分蓄積期間は9月～11月が最盛期となる。

収量調査は昭和43年3月28日から71日間行なった。a当り収量は59.6kg(屑物は除く)で一本平均重は15g、個体追跡調査は培土せず収穫したが、株当り収穫本数は38本となった。従来からの慣行栽培の最高収量は3年株(収穫初年目)で28.5kg、4年株で82.9kgであったところから考えると、本方式は相当

の多収をあげたことになる。

なお、収穫後の生育も良好であったところから次年度以降における収量も慣行栽培より高いことが予想されるので、暖地におけるアスパラガス栽培は本方式に改められるべきである。

む す び

本方式による栽培での生育経過は従来のものに比べて、1) 仮植や定植による生育の停滞が少ない、2) 6月末から7月初旬にかけて定植することによ

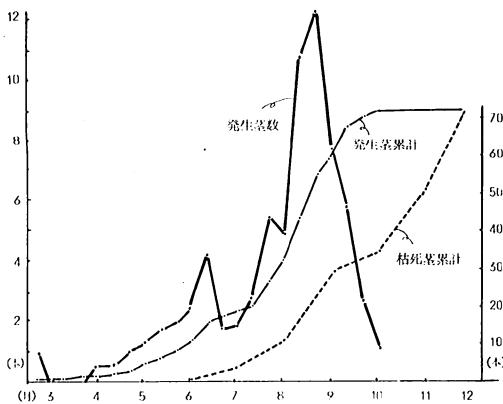
り高温多湿の夏期に過繁茂しない、などの点で異なっている。このため、1) 今まで問題となった育苗期および定植後の病害が耕種的に回避される。2) 生育調査、収量調査の結果、暖地での栽培では、種から収穫までに2ヶ年をおく必要はなく、初収穫までの期間を1年短縮できる。3) 収穫初年目から収穫期間を従来の30日より長くする。4) 生産が安定し、多収をあげることが出来る。などの点に特長がある。

第 1 表 苗 床 に お け る 生 育

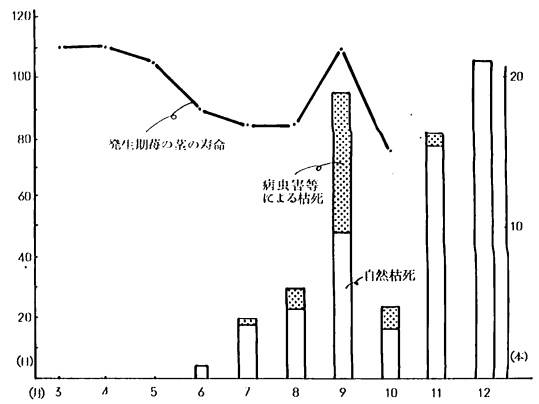
項 目 \ 調査月日	3. 15	4. 1	4. 15	5. 1	5. 15	6. 1	6. 15	7. 1	7. 15
茎 長 (cm)	1	4	9	13	20	31	41	58	—
茎 数 (本)	1	1	1.6	2.5	4.0	6.9	8.8	14.5	—
地上部重 (g)	—	0.1	0.2	0.3	0.8	3.2	7.2	32.0	—
根 長 (cm)	3	6	1.5	18	22	27	30	32	—
根 数 (本)	1	1	2.3	3.8	5.8	11.8	19.5	28.2	—
地下部重 (g)	—	0.3	0.4	0.6	0.9	2.7	5.8	24.1	—

第 2 表 植 付 後 に お け る 生 育

項 目 \ 調査月日	8. 1	8. 15	9. 1	9. 15	10. 1	10. 15	11. 1	11. 15	12. 1
茎 長 (cm)	81	98	104	123	133	159	154	148	140
茎 数 (本)	18	19	20	24	27	26	28	26	17
地上部重 (g)	79	136	276	427	634	815	897	635	546
根 長 (cm)	35	42	48	53	62	65	68	72	77
根 数 (本)	47	74	126	148	160	175	220	230	249
地下部重 (g)	63	87	174	222	392	157	649	748	841



第 1 図 茎 の 発 生 と 枯 死 状 況



第 2 図 茎 の 寿 命 と 月 別 枯 死 茎 数